



日本基督教一團  
讚美歌委員會編

## 序

先に昭和六年に刊行されし現行讃美歌は、幸にして我國の教界にて廣く用ゐられ、幾度か版を重ねることを得たりき。然るに大東亞戰爭以來、用紙の配給著しく減少せしため、從來の原形のままにて讃美歌を印刷しては、その需要に應じ難くなりぬ。これによりて讃美歌委員會にては、現行讃美歌の數を約半減せんことを企て、所謂時局版を刊行するに至り、その詳細なる經過に就いては、同讃美歌の序に記したりき。

斯くて時局版讃美歌編纂委員會が、現行讃美歌の半減に著手しつつある間に、別に新しき讃美歌集を編纂すべしとの議生じぬ。曰く、この大なる新しき時代には、新しき讃美歌集出でざるべからず。今日、我等基督教徒は實に日本國民として、幾多の歌はでは已まさる題材に迫まられつつあるに非すや。日本の基督教徒自ら歌を作り、自ら譜を整ふべきなり、云々。斯くて讃美歌委員會は、興亞讃美歌編纂委員會を設け、委員長に渡部元、委員に安部正義、木岡英三郎、鳥居忠五郎、比屋根安定、別所梅之助、宮川勇、岡本敏明、小河原虎三の諸氏を選び、昭和十七年七月二日に著手して、同十八年三月十八日を以て編纂を終りぬ。

興亞讃美歌は、收むるところ多からずと雖も、我國の讃美歌史に於て頗る特筆すべきものなるべし。多くの歲月を閲しさりしかば、不備の點あるを脱れざれども、この未曾有の時代に即應したる日本基督教徒の信仰を詠じたるものにして、時局版讃美歌と共に併用せられんことを望んで已まさるなり。この舉に賛して、或は歌詞を寄せられ、或は曲譜を作られし諸氏に對して、讃美歌委員會は深く感謝するものなり。

昭和十八年三月

### 讃美歌委員

阿部義宗 小崎道雄 斎藤忠郎 谷本正 原田友太 日高善一  
比屋根安定 別所梅之助 山北多喜彦 山本喜蔵 渡部元 小田信人

# 興亞讚美歌目次

大東亞建設	一
大東亞建設	二
大東亞共榮圈	三
臣道實踐	四
臣道實踐	五
一億一心	六
世界維新の歌	七
應召軍人を送る	八
應召軍人を送る	九
職域奉公	一〇
傷痍軍人に對する感謝	一一
傷痍軍人に對する感謝	一二
滅私奉公	一三
白木の柩	一四
御墓まうで	一五
鍊成の歌	一六
開拓	一七
銃後の家庭	一八

時局と女性	一九
時局と青年	二〇
時局と青年	二一
軍國の母の歌へる	二二
軍國の母の歌へる	二三
おほやまと	二四
日本傳道	二五
海外傳道	二六
大陸傳道	二七
支那傳道	二八
南方傳道	二九
興亞祈願	三〇
あらたなる	三一
おほきみの	三二
神と偕に	三三
義は國を	三四
宣戰の	三五
擧ちてし止まむ	三六

## 大東亞建設

宮川 力

説本敘明

J = 100

♩ = 100

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

Soprano: おのづかみどりの木に  
Alto: はなへなすあなたと  
Tenor: うがしあじやーと  
Bass: すののせん

四

三

1

1

一  
五月蠅<sup>さ</sup>なす 億<sup>ひ</sup>の 皇<sup>み</sup>民<sup>たみ</sup>よ起<sup>あ</sup>ちて 仇<sup>あ</sup>を おひやり  
日の出<sup>い</sup>づる 安<sup>アシ</sup>國<sup>コトニ</sup>の 東<sup>ひがし</sup>アジヤ<sup>ア</sup>を うらやすにせん  
稱<sup>たた</sup>た 国<sup>くに</sup>生<sup>う</sup>みや 奇<sup>ク</sup>しき神<sup>ミツカミ</sup>技<sup>エキ</sup>  
おほいなる はや は、た國<sup>くに</sup>引<sup>ひ</sup>きや  
目<sup>ま</sup>のあたり づくりをば  
四方<sup>よ</sup>の海<sup>うみ</sup> 同<sup>は</sup>胞<sup>カラ</sup>と なり 見<sup>み</sup>るぞゆゆしき  
打ち建<sup>た</sup>てん 義<sup>ギ</sup>と 愛<sup>あい</sup>を 神<sup>ミツカミ</sup>御<sup>ミツカミ</sup> 御<sup>ミツカミ</sup>父<sup>チカラ</sup>と 崇<sup>あが</sup>め  
主<sup>しゅ</sup>福<sup>ふく</sup> 音<sup>いん</sup>を 民<sup>ミン</sup>を 育<sup>いく</sup>樂<sup>ラク</sup>土<sup>ト</sup>アジヤ<sup>ア</sup>を いしずゑとして  
日<sup>ひ</sup>の出<sup>い</sup>づる 東<sup>ひがし</sup>アジヤ<sup>ア</sup>を 増<sup>ます</sup>し あまねく宣<sup>あらわ</sup>べて  
打ち建<sup>た</sup>てん 神<sup>ミツカミ</sup>の 御<sup>ミツカミ</sup>國<sup>くに</sup>を

## 大東亜建設

石九樂部

獨唱譜

力強く  $\text{d}=60$ 

*mf*

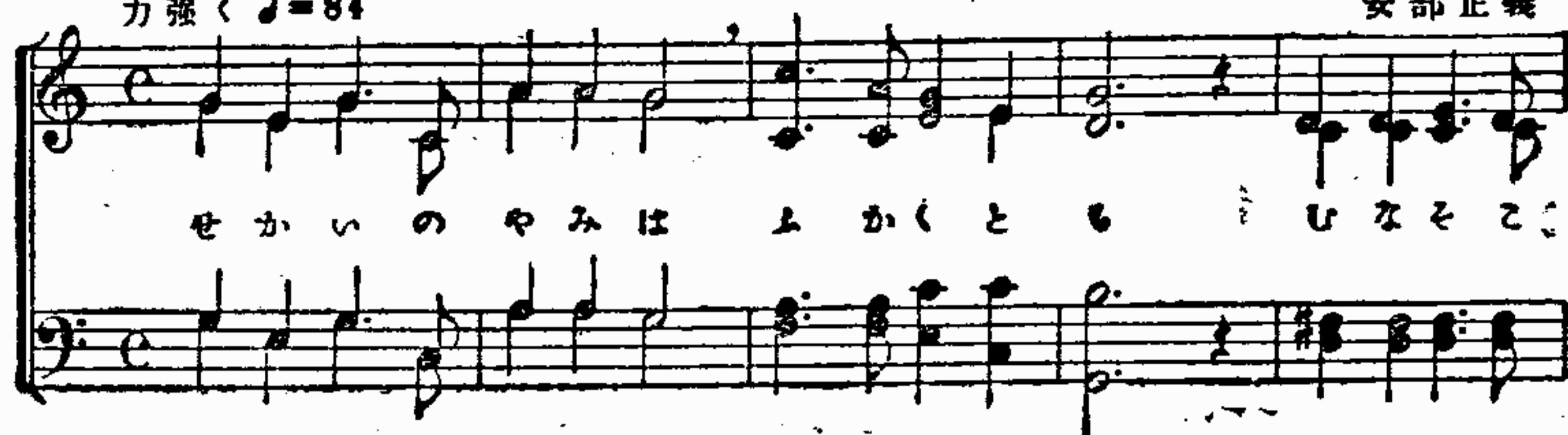
みうあんがいしのそらあきて  
いましたるるだいにほん  
すめるじふよーくの  
みをはすくふーん  
みいつのもとくならんとす

## 大東亞共榮圏の歌

賀川豊彦

力強く ♪ = 84

安部正義



五

四

三

二

一

三

世界の闇は深くとも一  
胸底のぼる東亞の光に  
試煉の堺場で呼り醒ませ  
十字架負ひて渡れども黎明に  
めぐみの雨ぞ降りそぞぐ  
オホツク海の結氷もいきむ身に  
愛の血潮にうちとかし  
父のみこころ世に成さん  
ねむる印度もゆりおこし  
なやみの鐵鎖共存共榮遂げでは  
神の國をば打建つる  
ああ黎明よ打建てん  
アシヤも遂にみめぐみに三  
歴史はきめて黎明によ  
見ぬ

見よひんがしの  
いましあ起ちたる大空  
アシヤに住める十億の日本  
民をば救ふ  
御稟威のもとに成らんとす  
アジヤに住める十億の日本  
道義日本  
聖業遂げではやみがたき  
意氣こそとも成らんとす  
道義日本  
主の福音の音を公道の音を  
大義あまねく共榮遂げではやみがたき  
建設計のため高々かかげて  
命に明くる見よほがらかに  
大信仰と努めばや  
東亞と

二

見よひんがしの  
いましあ起ちたる大空  
アシヤに住める十億の日本  
民をば救ふ  
御稟威のもとに成らんとす  
アシヤに住める十億の日本  
道義日本  
聖業遂げではやみがたき  
意氣こそとも成らんとす  
道義日本  
主の福音の音を公道の音を  
大義あまねく共榮遂げではやみがたき  
建設計のため高々かかげて  
命に明くる見よほがらかに  
大信仰と努めばや  
東亞と

## 臣道實踐

長谷部俊一郎

明るく ♩=104

木岡英三郎

The musical score consists of four staves of music, each with lyrics in Japanese. The lyrics are as follows:

- Section 一 (Top Staff):** さかみにうまき  
すめらぎにまつらふわれら  
すめらぎにまつらふわれら  
すめらぎにまつらふわれら
- Section 二 (Second Staff):** すめらぎにまつらふわれら  
すめらぎにまつらふわれら  
すめらぎにまつらふわれら  
すめらぎにまつらふわれら
- Section 三 (Third Staff):** ひげむこころは  
あまつかみこそ  
あまつかみこそ  
あまつかみこそ
- Section 四 (Bottom Staff):** はげむこころは  
すめらぎにまつらふわれら  
すめらぎにまつらふわれら  
すめらぎにまつらふわれら

三

二

一

四

臣盡さへ忠じゆ威いの道みちのいざわれら  
いまシアジヤに日ひはのぼりたり

忠じゆ威いの道みちのいざわれら  
こたへまつらん まことに燃もよえて

大御稜おほみやび威いのいざわれら  
仰おほぐわれらは そのみめぐみに

盡さへ忠じゆ威いの道みちのいざわれら  
たかしらします いのちをささげ

忠じゆ威いの道みちのいざわれら  
ひじりにまして つらぬき行ゆかん

光榮さかえある皇國こうこくにうまれ

## 臣道實踐

鍋根文之助

♩=80

川村信義

*mf*

cresc.

三

二

一

五

富士の嶺そびえさくら咲く  
うるはしの國日の本の  
御民と生れかしこくも  
すめらみことをみおやとぞ  
仰ぎまつらふたふときよ

傳遠國にあめつちのむた  
統へつはいざ諸も大業  
を御高祖が根に示す世界に大和島根  
ひと日ひと日にくがはじめゆ  
おのがつとめを靈さばや

事依かかげつつかめばや  
すめらぎのあたらしく  
事依かかげつつかめばや  
すめらぎのあたらしく

秩序建つべくが根に示す世界に大和島根  
のはじめゆ  
かめばや  
かめばや

時國柄を今まを  
あらたなる  
あらたなる

白石保太郎

林良矣

J=92

The musical score consists of four staves of music for voice and piano. The top two staves are for the voice (Soprano) and the bottom two are for the piano. The lyrics are written below the notes in Japanese. The tempo is marked as 92 BPM. The key signature is one sharp (F# major). The music is in common time.

**Staff 1 (Soprano):**  
 やまだもる しづのさな - な - さと  
 (yamada moru shizu no sana - na - sa to)

**Staff 2 (Piano):**  
 ひなのを - と める ひたぶるに  
 (hinano wo - to meru hitaburu ni)

**Staff 3 (Soprano):**  
 みくに - と ふゆ - ゆ こ - る こそ  
 (mikuni - to fuyu - yu ko - ru koso)

**Staff 4 (Piano):**  
 ひ - と な - か  
 (hi - to na - ka)

四

三

1

—

六  
山田もる 腿のねきなも  
草刈る 部の少女も  
ひたぶるに 皇國をおもふ  
こころこそ ひとつなりけれ  
打ち日さす 都の大臣  
あまざかる 鄙の腰の男  
おほきみに つかへまつろふ  
まごころに かはりあらじな  
そらを飛ぶ 翼の人も  
銃をとる 地のますらをも  
かはらじな 大きアジヤを  
興さんと 育すところは  
わたくしの ところを去りて  
おのがじし つとめを勵み  
光榮ある 大きまぼろし  
ひとすちに いだきて行かな

## 世界維新の歌

梅老譚死

雄渾に ♩ = 92

東山輝男

四

三

二

一

世せお神か高た世せ聖み目め八は世せ秩う東う輶ぱき光ひかり妖えう見え  
 界かき業わき標あ絃う界か序う亞う解とあ雲うん消えよ東う雲  
 のがつとめを聖み維うのためとすなる爲う維う建うたの民なみねしてのの  
 維新しの武具も業わき新うの身を企くはだ身を創う大う秋う舊う共う感か  
 新のためをををを遂うげんため企うてん身を造う理う來う起う激う東う麗うらら空う明  
 成る日までいそしまん身をよろひ企うてん身を獻うげの想うぬつのに亞うアカサカ

## 折返し(合唱)

新選し(合唱)

い で や (い で や) は も の (つは もの) ゆ  
ゆ け み か み は

な 一 れ と と も に あ ま

三

2

1

# 應召軍人を送る歌

宮川男

行進曲風 (密唱) ♩ = 92

中田羽砂

## 鹿召軍人を送る

卷一百一十五

J = 116

圖本說明

歌詞

かほ きみ の めしのみよみそ  
タニ タミ ノ タウトユウトヲ  
ひは しく も し へたけられし  
タイ ノ 主・ タクサユイユク

いただき て しこのみた て  
タノミヤス トオホキミカシ  
もろたみを あだよりすく  
タスラタタタグミシュクシ

*mf*

と ま た ら ヒ か たち い づる ひ  
こ だ い ー と う あ お か 二 ソ リ ハ  
ひ ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー  
*mp*

*f*

よ み そ ら さ へ あ な す が す が し  
レ コ リ ア タ ウ タ ザ ャ ム ベ キ  
じ よ じ か と ウ ケ ラ ハ フ ヘ ハ  
フ ヲ ガ タ ク カ ム ハ ハ デ

*f* *ff*

## 職域奉公

宮川勇

松田幸一

活潑に  $\text{J}=88$ 

*mf* =

わかれはみのれの もちは もちばと  
コロノユルビタ オノガワトメタ  
にたみこせて うきも つらはる

まもりてひととの つとめをはけみ いくさにめさへし つはものたちの  
ヨコタルトヨニハ イクサノニハニ イユキタイナラカケタタカフ  
いとはであのれの わざとはけまは みかみはかならざ からとたれて

ことこの うれひ ととりの セーかは や  
ハモク レンビ タフルヒターフヌ レ  
はまある こうあ のみわざヒーはな る

一 おほきみの 召しの御文を  
いただきて 醜の御楯と  
ますらをがたちいづる日よ  
御空さへあなたがすがしくにたみの  
懇みます忠と勇とを  
わたつみにおほきみ畏  
醜の仇たたかはれし  
ひさしくもあたよりすくひ  
建てんがために  
我等は負へり  
愛の主よを序じを  
ますらををめぐみ祝して  
護りませ  
つつがなく歸るときまで

一 われらはおのれの持場持場を  
まもりて日毎の職務をはげみ  
いくさに召されし  
つはものたちの後顧のうれひをとりのぞかばや  
二 こころの綱びておのが職務を  
おこたるときにはいくさのにはに  
い征きていのちをかけてたたかふ  
つはもの偲びて奮ひ起つべし  
三 國民こぞりて憂さもつらきも  
いとはでおのれの業をはげまば  
御神はからず勝利を賜ひて  
榮ある興亞の聖業をば成さん

# 傷痍軍人に對する感謝

五郎

J=72

安部正義

すみの みと みし みは  
 5 みに かに みそらに うう  
 うけを はい たて とひ う

四

三

2

1

## 傷痍軍人に對する感謝

12

石保太郎

♩=80

中田羽後

The musical score consists of four staves of music. The top staff is for the vocal part, the second staff is for the piano, and the bottom two staves are also for the piano. The lyrics are written below each note. The first staff starts with 'うみへこなと二とひかよしときわいさすめにらみのて' and ends with 'あたによりてそ'. The second staff starts with 'をとしくたかひあなれにとおとぞ' and ends with 'cresc.'. The third staff starts with 'いたでビタラるみをもへは' and ends with 'は'. The fourth staff starts with 'かんじのなみだわがめはうるひ' and ends with 'は'.

二

二

一

一一

うへなくたふとき  
わがすめらぎの  
みことをかしこみ  
いくさに征きて  
雄しくたたかひ  
あたによりてそ  
痛手を負ひたる  
君をおもへば  
感謝のなみだに  
わが眼はうるむ  
敵地の直中  
皇國にささげ  
いしくも生死の  
さかひを超えて  
いたでを負ひたる  
徃きに徃きつつ  
花咲くあしたに  
君をおもへば  
感謝のなみだぞ  
わが頬をながる  
疵にもまさりて  
月澄む夜半に  
あめなるみかみよ  
いたでを負へる  
たたふれし戰友  
思ひ出でては  
めぐませたまへ  
胸や痛まん

## 公 翠 私 愛

山宮武市

♩ = 100

鶴良秀

いそしーじーわさは ことなれど  
ふるひーとーくはに ひとつちに  
まれるねーつと まことこそこーみ  
くにさかゆくもとーるなれ

四

活ける御模範に  
麦と死なまし  
ける御模範に  
アシヤを興し  
うち建てんため  
いみじと神も  
父かなき子らに  
かくれし業も  
主なき家を

飯イ一と主の見そなはさん  
ひエス粒の國くを母人を

三

玉征の御行  
と碎けし亞の  
けにも興亞の  
げに家を

涙とくを母人を

二

皇國榮行  
と大陸橋で  
くにと  
とと

わたつみに

一

振る一鉄に  
こもれる熱と  
まことこそ  
ことなれど

一  
三

## 白木の棺

副所轄之助

庄重に ♩ = 60

木間英三郎

1  
すめろぎのみことかしこみ  
みいくさにきみいでたちぬ  
ちちははのまなどなりしが  
ものふのみちをも知れり

2  
つるぎたち身にとりはきて  
わかれにしかの日しのぼゆ  
ひとのくにことなるきかひ  
さきもりよしと書きしを

3  
つひの日はいかにありけん  
かみこそはしらせたまはめ  
との手にかきいだがれて  
かへりきぬきみかへりきぬ

4  
ひとの世に死ぬべきいのち  
ところ得てきみは死にけり  
あまかけるたまもしづまれ  
ゆめに見しふるさとの地に

一  
すめろぎのみことかしこみ  
みいくさにきみいでたちぬ  
ちちははのまなどなりしが  
ものふのみちをも知れり

二  
つるぎたち身にとりはきて  
わかれにしかの日しのぼゆ  
ひとのくにことなるきかひ  
さきもりよしと書きしを

三  
つひの日はいかにありけん  
かみこそはしらせたまはめ  
との手にかきいだがれて  
かへりきぬきみかへりきぬ

四  
ひとの世に死ぬべきいのち  
ところ得てきみは死にけり  
あまかけるたまもしづまれ  
ゆめに見しふるさとの地に

## 御墓まうて

山本喜蔵

水谷久

♩ = 80

かのなめにいさーさよ  
はなとらりにしますらをの  
かくうとへーばいさーさらに  
わがかんけきとよみーがへる

四

三

二

一

一五

花興亞のためにハサギよく  
奥津城訪へばますらをの  
わが感激ぞよみがへる  
國のため今更に  
大君のためたてましし  
君にささぐる一億の  
高きみいきをたてましし  
たかみ君のためたてましし  
たかみ君にささぐる一億の  
民の感謝をきこしめせ  
仇を懲らして打建てんため  
世を去りまししやすらにねむれ  
やさらしき世のあたらしき世の  
あまつみかみのあまつみかみの  
つきぬめぐみを受けよかし

## 鍊成の歌

## 鼓鳥盛綱

宋 沈 豪

$d = 100$

8.

あーがめよつらよくはなーさみのだ  
てーつときたへこはーかみるのだ

しニコのとみたてとんしひーるふぞ  
ルニコのとみがかんのとんしひーるふぞ

いさいさわれいーさわはーる

*Fine*

D.C. 8.

三

1

1

崇あふ  
醜の御楯と  
いざ我等  
玉なま  
鐵と鍛へん  
歴史榮ある  
いしづ立堅く  
めぐみゆたけき  
と固めん  
血もて盟はん  
巖はと  
御子のいきをに  
いざいざ我等  
いよよ深めん

おほきみの死ぬる身ぞ  
いざ我等  
この身體からだ  
この精神こころ  
すめぐにの護まつる身み  
いざ我等われら  
この團結だんけつ  
この忠誠ちゆうせい  
大おほい生いきく神かみ  
いざ我等われら  
行おこない爲あこなひ  
をを

## 開拓

別所櫻之助

情熱をこめて ♩=92

米山輝男

Top staff lyrics: かくはうどはうらにそうたふかし  
中 staff lyrics: さくみうるへはあめつち  
Bottom staff lyrics: うとのーてにーなーるのみなう

四

我  
ら  
の  
村  
は  
か  
く  
し  
て  
成  
り  
ぬ

三

春  
には  
菖  
蒲  
の  
花  
咲  
く  
廣  
野

二

駒  
も  
勇  
み  
て  
普  
ロ  
ー  
率  
く  
な  
り

一

黄  
土  
は  
廣  
ら  
に  
見  
る  
目  
も  
涯  
な  
き  
物  
み  
な  
潰  
ゆ

一七

## 銃後の家庭

山東文字  
J.-89

大清志人

11

めでて とめでて もとめでて  
とめでて もとめでて もとめでて

12

あこさせさせし くわういは  
あこせし くわういは

ゆかしゆし ゆかしゆし  
ゆかしゆし ゆかしゆし

のちあかさくいいろなな  
のちあかさくいいろなな

ののさあかさくいいろなな  
ののさあかさくいいろなな

四

三

1

1

眞玉と愛でて  
吾子をささげし  
ゆかし母父老いらくの  
いのち明るく生くるなり  
勇士は留守となりたれば  
兄弟こそり身に餘る  
貴を負ひつつおのがじし  
日々のつとめにいそしみつ  
つてしまみて  
妻耐若兄子戰へば  
子はぐくみ試練に  
へつつ家を齊ふ  
ぞ銃後扶け  
ところをあはせ  
に互に  
銃後をまもる  
護らせたまへ  
あまつ神ば

## 時局と女性

野見影子

♩=72

草川宣

さかゆゑみにひのーるとの  
とみなーとうなれつしに  
けろかひあそこさくの  
みわざに一なよら上とさ  
四 三 二 一

一 九

さかゆる御代に 日の本の  
をみなと生れ うつし世に  
生ける甲斐ある 興國の  
聖業を擔ふ たふときよ  
いくさにはに い征きつつ  
いのちをさしげ もろもろの  
患難を忍ぶ ますらをを  
あまつみかみの みちからに  
思へば潤む わが眼  
たよりまつりて ひたぶるに  
手弱女われも 銃後をば  
あまつみかみの ひたぶるに  
國を愛する 神に いそしまん  
こころ盡する 神に いそしまん  
ああわが神よ 皇軍に 祈るなり  
かならず勝利を 賦へかしに をみなわれ

## 時局と青年

小河原虎三

力強く  $\text{♩} = 108$ 

松田幸一

mf

とアくほにうのひみやツコ よりノルオカ けかは つミミ しウニ 一一セクラ

いきのちみし ほニタニカリ なリタレ てリヤ 二二

のかうどの カツベキトキを キタウタラ い で や わ  
カウドノ ハエアルミチハ カガヤケタ ト ま ト は  
おほきみの みたてのほまれ みにふひて お

1  
れ キ ャ ル は ル を ひ イ き と キ ブ す く 一 ち も べ に ま く ほ み  
の カ か ほ み ト み ト あ る さ さ つ い 一 ゆ え ゆ か ン  
2  
の カ か ほ み ト み ト あ る さ さ つ い 一 ゆ え ゆ か ン  
3  
の カ か ほ み ト み ト あ る さ さ つ い 一 ゆ え ゆ か ン

三

御神を仰ぎ 大きアジャヤを 大君の御楯のはま  
り 生れし身こそ 大きほりの御楯のほま  
り

勇みゆかん 築くべく 男みゆかん  
築くべく 身に負ひて 幸なれや

二

國の興れる 御東亞率ゐる 天つ日嗣の  
國の内外に 若人の榮ある道は 大御稟威  
御神と偕に 進みゆかん 意氣に燃え

遠つ父祖より 正義の血潮 遠つ父祖より  
若人の起つべき秋ぞ 高鳴りて 享けつぎし  
いでの道も ひとすちに 衝きてゆかん  
我等は來りたる ひとすちに ひとすちに

二〇

時局と青年

卷五

J=74-80

字根 部

The musical score consists of four staves of music for voice and piano. The top staff is in common time, treble clef, and has lyrics in Japanese. The second staff is also in common time, bass clef. The third staff is in common time, treble clef. The bottom staff is in common time, bass clef. The music includes various note values such as eighth and sixteenth notes, and rests. The tempo markings include *mf*, *f*, *mp*, and *p*. The score is titled "字謡歌" in the top right corner.

四

三

2

1

1

とよさかのほる  
暗をやぶりて  
日出づる國の  
いまし光に  
もろくにひとを  
あめのしたをば  
おほみことのり  
一億の民な  
ふるひ起つ  
かしこみて  
字となす  
解き放ち  
ものなべて  
目醒めたり  
照り出でぬ  
朝日。影  
とよさかのほる  
暗をやぶりて  
日出づる國の  
いまし光に  
もろくにひとを  
あめのしたをば  
おほみことのり  
一億の民な  
ふるひ起つ  
かしこみて  
字となす  
解き放ち  
ものなべて  
目醒めたり  
照り出でぬ  
朝日。影

## 軍國の母のうたへる

谷川初音

ゆるやかに ♩=80

石丸泰郎

mp

con moto (早めに)

mf

mf

ri.

ri.

四

三

二

一

二  
二

もとなかかりて  
たまゆらも忘<sup>か</sup>らえぬかも  
愛<sup>は</sup>しけやしき子こそは  
わがいのちわがきかえなれ  
わがいのちわがきかえなれ  
わがおほきみにわがおほきみに  
召<sup>め</sup>されてぞ召<sup>め</sup>されてぞ  
いさみたつたふとけれ  
たふとけれ  
ふるきとをひたにゆけ  
ひたにゆけ  
まもりありまもりあり  
戈<sup>ほこ</sup>とりて家<sup>いえ</sup>も身<sup>み</sup>も  
十字架<sup>じよか</sup>の家<sup>いえ</sup>も身<sup>み</sup>も  
そのちしほきよかれとこそ  
そのるかなそのいのち  
そのいのち

眼<sup>まな</sup>交<sup>まか</sup>に  
交<sup>まか</sup>に  
に  
に  
たまゆらも忘<sup>か</sup>らえぬかも  
愛<sup>は</sup>しけやしき子こそは  
わがいのちわがきかえなれ  
わがいのちわがきかえなれ  
わがおほきみにわがおほきみに  
召<sup>め</sup>されてぞ召<sup>め</sup>されてぞ  
いさみたつたふとけれ  
たふとけれ  
ふるきとをひたにゆけ  
ひたにゆけ  
まもりありまもりあり  
戈<sup>ほこ</sup>とりて家<sup>いえ</sup>も身<sup>み</sup>も  
十字架<sup>じよか</sup>の家<sup>いえ</sup>も身<sup>み</sup>も  
そのちしほきよかれとこそ  
そのるかなそのいのち  
そのいのち

主<sup>しゆ</sup>征<sup>じゆ</sup>く<sup>あ</sup>吾<sup>ご</sup>子<sup>こ</sup>のため  
主<sup>しゆ</sup>を<sup>あ</sup>仰<sup>あ</sup>ぎ<sup>あ</sup>つ<sup>あ</sup>  
そのいのち<sup>あ</sup>いのち<sup>あ</sup>

鶴嶺久良子

## 軍國の母のうたへる

力強く  $\text{J}=108$ 

川村信義

*mf*

しらういのそでもしもこほるほくらに  
てつのかぶとちやくろみなみに  
みにのたてとひゆうじあ  
はははあねますさうあとはせて  
せらにせいのそながみのさら

## おほやまと

副所持之物

中田物語

Recit. Tempo

おほやまと やまとしまねの たみなれば  
しりぞくことはならはさり一け一  
しりぞくことはならはさり一け一

四

三

二

一

せ母は大か嬉<sup>き</sup>せ母<sup>は</sup>銃<sup>じゆ</sup>は<sup>ま</sup>眞<sup>ま</sup>せ母<sup>は</sup>皇<sup>み</sup>大<sup>だい</sup>勝<sup>かつ</sup>せ母<sup>は</sup>皇<sup>み</sup>鐵<sup>てつ</sup>戎<sup>えい</sup>  
ちはき御<sup>ご</sup>はひ<sup>ひ</sup>珠<sup>じゅ</sup>は<sup>ま</sup>國<sup>こく</sup>は<sup>ま</sup>ち<sup>ま</sup>和<sup>わ</sup>て<sup>ま</sup>ちに<sup>ま</sup>に<sup>ま</sup>か<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>衣<sup>い</sup>の<sup>ま</sup>袖<sup>そ</sup>も<sup>ま</sup>  
にひ<sup>ひ</sup>御<sup>ご</sup>はひ<sup>ひ</sup>後<sup>ご</sup>を<sup>ま</sup>海<sup>うみ</sup>は<sup>ま</sup>國<sup>こく</sup>は<sup>ま</sup>ち<sup>ま</sup>和<sup>わ</sup>て<sup>ま</sup>ちに<sup>ま</sup>に<sup>ま</sup>か<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>櫻<sup>さくら</sup>れ<sup>ま</sup>ぞ<sup>ま</sup>新<sup>しん</sup>も<sup>ま</sup>と<sup>ま</sup>新<sup>しん</sup>も<sup>ま</sup>と<sup>ま</sup>  
ぞね<sup>ね</sup>御<sup>ご</sup>はひ<sup>ひ</sup>稜<sup>りょう</sup>を<sup>ま</sup>護<sup>ま</sup>は<sup>ま</sup>國<sup>こく</sup>は<sup>ま</sup>ち<sup>ま</sup>和<sup>わ</sup>て<sup>ま</sup>ちに<sup>ま</sup>に<sup>ま</sup>か<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>櫻<sup>さくら</sup>れ<sup>ま</sup>ぞ<sup>ま</sup>新<sup>しん</sup>も<sup>ま</sup>と<sup>ま</sup>新<sup>しん</sup>も<sup>ま</sup>と<sup>ま</sup>  
祈<sup>めぐら</sup>も<sup>ま</sup>威<sup>い</sup>が<sup>ま</sup>陸<sup>りく</sup>を<sup>ま</sup>祈<sup>めぐら</sup>は<sup>ま</sup>海<sup>うみ</sup>は<sup>ま</sup>國<sup>こく</sup>は<sup>ま</sup>ち<sup>ま</sup>和<sup>わ</sup>て<sup>ま</sup>ちに<sup>ま</sup>に<sup>ま</sup>か<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>櫻<sup>さくら</sup>れ<sup>ま</sup>ぞ<sup>ま</sup>新<sup>しん</sup>も<sup>ま</sup>と<sup>ま</sup>新<sup>しん</sup>も<sup>ま</sup>と<sup>ま</sup>

二 三

世<sup>ぜ</sup>思<sup>おも</sup>四<sup>よ</sup>東<sup>とう</sup>は<sup>ま</sup>東<sup>とう</sup>思<sup>おも</sup>業<sup>わざ</sup>御<sup>ご</sup>玉<sup>たま</sup>皇<sup>み</sup>思<sup>おも</sup>さ<sup>ま</sup>散<sup>さん</sup>う若<sup>わ</sup>若<sup>わ</sup>散<sup>さん</sup>う汝<sup>な</sup>思<sup>おも</sup>い<sup>い</sup>灼<sup>つ</sup>凍<sup>こ</sup>  
界<sup>かい</sup>ひ<sup>ひ</sup>方<sup>ほう</sup>ア<sup>ア</sup>亞<sup>あ</sup>亞<sup>あ</sup>ひ<sup>ひ</sup>を<sup>ま</sup>母<sup>は</sup>と<sup>ま</sup>國<sup>こく</sup>ひ<sup>ひ</sup>を<sup>ま</sup>駆<sup>は</sup>し<sup>ま</sup>香<sup>こう</sup>散<sup>さん</sup>う<sup>ま</sup>汝<sup>な</sup>思<sup>おも</sup>い<sup>い</sup>征<sup>せい</sup>く<sup>ま</sup>る北<sup>ほく</sup>  
の<sup>の</sup>を<sup>を</sup>駆<sup>は</sup>か<sup>か</sup>渡<sup>わた</sup>は<sup>ま</sup>津<sup>つ</sup>は<sup>ま</sup>に<sup>ま</sup>碎<sup>くだ</sup>に<sup>ま</sup>駆<sup>は</sup>は<sup>ま</sup>香<sup>こう</sup>散<sup>さん</sup>う<sup>ま</sup>汝<sup>な</sup>思<sup>おも</sup>い<sup>い</sup>征<sup>せい</sup>く<sup>ま</sup>る北<sup>ほく</sup>  
幸<sup>さち</sup>せ<sup>せ</sup>や<sup>や</sup>興<sup>き</sup>海<sup>うみ</sup>幸<sup>さち</sup>せ<sup>せ</sup>駆<sup>は</sup>か<sup>か</sup>勵<sup>は</sup>は<sup>ま</sup>微<sup>すこ</sup>駆<sup>は</sup>は<sup>ま</sup>香<sup>こう</sup>散<sup>さん</sup>う<sup>ま</sup>汝<sup>な</sup>思<sup>おも</sup>い<sup>い</sup>征<sup>せい</sup>く<sup>ま</sup>る北<sup>ほく</sup>  
を<sup>を</sup>て<sup>て</sup>く<sup>く</sup>り<sup>り</sup>に<sup>に</sup>を<sup>ま</sup>む<sup>む</sup>ひ<sup>ひ</sup>し<sup>し</sup>を<sup>ま</sup>て<sup>て</sup>よ<sup>よ</sup>や<sup>や</sup>は<sup>ま</sup>幸<sup>さち</sup>せ<sup>せ</sup>を<sup>ま</sup>て<sup>て</sup>よ<sup>よ</sup>に<sup>に</sup>に<sup>ま</sup>

二 四

おほやまと

大和島根の

民<sup>たみ</sup>なれば退<sup>しりぞ</sup>くこと<sup>は</sup>

なはざりけり

## 日本傳道の歌

曲木康

行進の歩調にて  $\text{♩} = 112\sim120$ 

境内敬三

と さ の て ん ち  
と せ ん さ ん う く く

あ け ん と じ  
か だ よ へ ど

せ い さ う の き は  
し う う の あ し た

る に み つ  
せ ゃ 一 ナ ー づ

ほ か 一 ら 一  
か か 一 ら 一

は つ か う か う の 一  
し ん だ う じ っ せ ん

だ い し め い  
た い け よ を

た っ せ い す る は  
よ く じ ん す る は

こ の と き ぞ  
こ の と き ぞ

Top Staff (Soprano and Alto):

いざはらからよ  
いざハラカラーヨ  
いざはらからよ  
ムリくいんかの  
ムリフジカの  
ムリくくわつ  
みはセミト主

Bottom Staff (Bass and Tenor):

たこ  
かオ  
あ  
か  
さ  
ヒ  
ト  
ま  
ス  
ス  
ス  
ス  
み  
ミ  
ミ  
み  
ゆ  
ユ  
ユ  
ユ  
か  
カン  
カ  
ン  
カ  
ン  
か

三

二

一

主ひい翼臣勝戦共とい挺て一ち大四御ひい達八清東  
 をざ贊道利雲にざ身億和海旗はざ成絃爽亞  
 ばす同はす負同はす島のかざ爲のの  
 仰胞ひひつ根ね渡は胞る宇氣天  
 きてよは蹴朝あくつよは心に濤よはのは地

二五

進復大遠難寄逆福大明  
 みゆか活業字局卷之の使  
 カんの時架時をぞにせきて  
 のぞをじとんをぞにせきて

## 海外傳道

小河原虎三

♩=92

東川宣雄

のーぼるあさひのはたーかーぜに  
とらあのそーらーのくらーはれで  
アーチャのしんどくじ上一ふくが  
ひーとつにーひーすーぶあさーはきーぬ

三

疾く傳へばや  
すくひを求め  
鴨子の樹しげる  
馴鹿群るる  
北國も

二

日いづる國の  
御民われ  
神に召されし  
よろこびを  
いかでこころに  
祕めおかん  
八潮路ごえて  
傳へばや  
みんなみも

一

のぼる朝日の  
東亞の空の  
アジヤの種族  
ひとつにむすぶ  
朝はきぬ  
十億が  
旗風に

二六

## 大陸傳道

清水安三

♩=82

中田初穂

The musical score is divided into four sections, each with a different dynamic and tempo. The first section starts with a piano dynamic (p) and a tempo of ♩=82. The second section follows with a piano dynamic (p). The third section begins with a piano dynamic (p) and a crescendo (cresc.). The fourth section starts with a piano dynamic (p) and a tempo of ♩=82.

四

祝(しゆく)國(こく)十(じゆう)わ  
字(じ)が日(ひ)  
民(たみ)た  
ちに  
したま  
へや  
に

代(だい)このかた  
さきはひませる  
あまつかみよ  
陸(りく)と島(しま)とは  
隔(はな)たれども  
埋(うめ)めたまへかし  
一  
神(かみ)代(だい)このかた  
おほやまとを  
さきはひませる  
あまつかみよ  
陸(りく)と島(しま)とは  
隔(はな)たれども  
埋(うめ)めたまへかし  
二  
兄(はは)弟(わら)牆(かき)に  
かたみに父(おや)と  
むかしの仲(なか)に  
共(とも)にかへらん  
父(おや)の神(かみ)に  
還(もど)るごとく  
母(はは)を偲(しゆ)び  
深(ふか)き溝(くぼ)を  
一  
神(かみ)代(だい)このかた  
おほやまとを  
さきはひませる  
あまつかみよ  
陸(りく)と島(しま)とは  
隔(はな)たれども  
埋(うめ)めたまへかし  
二  
七

天(あま)示(し)す善(ぜん)き聖徒(せいと)たちが  
津(つ)行(ゆ)爲(め)國(こく)をの

## 支那傳道

水木音譜

別所梅之助  
元氣よき J=84

すうふのふうは いまにそんしー

すうふのふうは いまにそんし

ひしのなが一れーを ひとはひすぶー

のべてつらぬ むらしひゆかしー

むらしひゆかし

五

四

三

二

一

二八

天あ狭夷い戒め因無天玄述塗鄙  
なるをもて華ひの道主あめなる佛行果爲地の酒魯の風は  
なる道をばをばがあがなひの修の清基また流れを  
にをばる神のなるは道を淨の玄べて作らぬ  
我今變へざれと開みわざを遂げ佛則果しあらず人とは今  
らも就かん今はすてて給へりみむねうけては夫子はゆかし存し  
妙と高し妙と觀し妙

## 南方傳道

春日清一

明るく♩=104

木闌英三郎

Musical score for the first page, featuring two staves. The top staff uses soprano clef and the bottom staff uses bass clef. The key signature is B-flat major (two flats). The tempo is indicated as明るく (brightly) with a tempo of ♩=104. The lyrics are written below the notes.

みんなみの  
みなみの  
あけけ  
そめ  
一  
わらかに  
れ  
る  
わ  
い  
みのふ  
くにみ  
とよろ  
ひ  
わ  
た  
て  
ゆ  
け  
い  
さ  
ま  
し  
d.

Musical score for the second page, continuing from the first. The staves and key signature remain the same. The lyrics continue from the previous page.

わ  
れ  
ら  
い  
み  
か  
み  
の  
ふ  
く  
に  
み  
と  
よ  
ろ  
ひ  
わ  
た  
て  
ゆ  
け  
い  
さ  
ま  
し  
d.

Musical score for the third page, continuing from the second. The staves and key signature remain the same. The lyrics continue from the previous pages.

わ  
れ  
ら  
い  
み  
か  
み  
の  
ふ  
く  
に  
み  
と  
よ  
ろ  
ひ  
わ  
た  
て  
ゆ  
け  
い  
さ  
ま  
し  
d.

Musical score for the fourth page, continuing from the third. The staves and key signature remain the same. The lyrics continue from the previous pages.

わ  
れ  
ら  
い  
み  
か  
み  
の  
ふ  
く  
に  
み  
と  
よ  
ろ  
ひ  
わ  
た  
て  
ゆ  
け  
い  
さ  
ま  
し  
d.

三

みんなみの  
みなみの  
あけけ  
そめ  
一  
わらかに  
れ  
る  
わ  
い  
みのふ  
くにみ  
とよろ  
ひ  
わ  
た  
て  
ゆ  
け  
い  
さ  
ま  
し  
d.

みんなみの  
みなみの  
あけけ  
そめ  
一  
わらかに  
れ  
る  
わ  
い  
みのふ  
くにみ  
とよろ  
ひ  
わ  
た  
て  
ゆ  
け  
い  
さ  
ま  
し  
d.

みんなみの  
みなみの  
あけけ  
そめ  
一  
わらかに  
れ  
る  
わ  
い  
みのふ  
くにみ  
とよろ  
ひ  
わ  
た  
て  
ゆ  
け  
い  
さ  
ま  
し  
d.

二

みんなみの  
みなみの  
あけけ  
そめ  
一  
わらかに  
れ  
る  
わ  
い  
みのふ  
くにみ  
とよろ  
ひ  
わ  
た  
て  
ゆ  
け  
い  
さ  
ま  
し  
d.

みんなみの  
みなみの  
あけけ  
そめ  
一  
わらかに  
れ  
る  
わ  
い  
みのふ  
くにみ  
とよろ  
ひ  
わ  
た  
て  
ゆ  
け  
い  
さ  
ま  
し  
d.

みんなみの  
みなみの  
あけけ  
そめ  
一  
わらかに  
れ  
る  
わ  
い  
みのふ  
くにみ  
とよろ  
ひ  
わ  
た  
て  
ゆ  
け  
い  
さ  
ま  
し  
d.

一

みんなみの  
みなみの  
あけけ  
そめ  
一  
わらかに  
れ  
る  
わ  
い  
みのふ  
くにみ  
とよろ  
ひ  
わ  
た  
て  
ゆ  
け  
い  
さ  
ま  
し  
d.

みんなみの  
みなみの  
あけけ  
そめ  
一  
わらかに  
れ  
る  
わ  
い  
みのふ  
くにみ  
とよろ  
ひ  
わ  
た  
て  
ゆ  
け  
い  
さ  
ま  
し  
d.

みんなみの  
みなみの  
あけけ  
そめ  
一  
わらかに  
れ  
る  
わ  
い  
みのふ  
くにみ  
とよろ  
ひ  
わ  
た  
て  
ゆ  
け  
い  
さ  
ま  
し  
d.

二

九

## 興 亞 所 頭

豊田 實

行進曲風に ジ=58

安藤 正義

よとおじくにしうかへのみゆうい  
ただえふじのれのけだかたる  
たのもとぞはらからよみもたま  
たみくらさのひそめ  
たまといましめを

## あ ら た な る

劉所緝之助

### Recit.

## Tempo

中田羽後



いき  
今したちたり

やまと おのこ  
大和男兒は

しきしまの

世をし開くと

新なる  
かた

3

見<sup>み</sup>雪<sup>ゆき</sup>よ非<sup>ヨシ</sup>時<sup>トキ</sup>に  
けだかく立<sup>タ</sup>てる  
護<sup>まつ</sup>皇<sup>ミコト</sup>國<sup>ノカニ</sup>にささげ  
りにまもれ同<sup>ハラ</sup>胞<sup>カラ</sup>よ  
身<sup>み</sup>もたまも大<sup>ヤ</sup>諸<sup>モロ</sup>身<sup>み</sup>日<sup>ヒ</sup>富<sup>ト</sup>士<sup>ジ</sup>の嶺<sup>カ</sup>  
妙<sup>タハ</sup>本<sup>モト</sup>を共<sup>モ</sup>に大<sup>ヤ</sup>和<sup>ミコト</sup>島<sup>シマ</sup>根<sup>ル</sup>を  
天<sup>アマ</sup>津<sup>ツ</sup>日<sup>ヒ</sup>嗣<sup>ミクニ</sup>の天<sup>アマ</sup>あめつちのむた  
かがやきわたる  
共<sup>モ</sup>に菜<sup>ハシ</sup>諸<sup>モロ</sup>共<sup>モ</sup>にえて  
ところ得<sup>エ</sup>させよ  
共<sup>モ</sup>いにざ  
祈<sup>ハス</sup>よろづの國<sup>カニ</sup>の  
おほみこころの  
成<sup>ハス</sup>せたまへ  
八<sup>ハ</sup>紘<sup>ヒ</sup>を  
を  
諸<sup>モロ</sup>共<sup>モ</sup>に  
ば  
天<sup>アマ</sup>一<sup>ヒ</sup>と祈<sup>ハス</sup>か  
天<sup>アマ</sup>つ御<sup>ミカミ</sup>神<sup>ミカミ</sup>」と  
らまし  
字<sup>イヘ</sup>と  
すめらぎを  
やはらぎを  
めらきの  
し  
天<sup>アマ</sup>そ<sup>ハ</sup>祈<sup>ハス</sup>大<sup>ヤ</sup>大<sup>ヤ</sup>極<sup>ミカミ</sup>  
天<sup>アマ</sup>つ御<sup>ミカミ</sup>神<sup>ミカミ</sup>」と  
ののら  
民<sup>ミン</sup>たま  
にし  
亞<sup>アヤ</sup>威<sup>カミ</sup>き

## おほきみの

劇所梅之助

Recit.

Tempo

中田羽後

おほきみの みことかしこみ みなみみな

ad lib.

mp

cresc.

Tempo

みくにたてんといそしみてあー

ad lib.

mf

dim.

Tempo

いそしみてあり

御國建てんと

御民みな

みことかしこみ

大君の

三二

## 神と借に

關根文之助詞  
安部正義編曲

青川琴

し - の あ ら - さ り - う れ い

へ - か み - と も - に す す - め や す

た - め ま さ - ら と の - 、

醜  
の  
仇

三  
三

神  
と  
借  
に

膚  
ち  
慾  
む  
べ  
く

丈  
夫  
の  
伴

進  
め  
や  
す  
す  
め

## 義は國を高くこそすれ

宮川易

齊唱(ゆるやかに・朗詠風に)

木岡英三郎

The musical score consists of three staves of music. The top staff is Treble clef, the middle is Bass clef, and the bottom is Alto clef. The lyrics are written below each note in Japanese. The first section of lyrics is:

義は國を高くこそすれ  
みるみわにいなかくこそすれ  
みるみわにいなかくこそすれ

The second section of lyrics is:

たかくこそすれ  
たかくこそすれ  
たかくこそすれ

ここる高めむ

いよよ清けき

御民われら

高くこそすれ

義は國を

三四

## 宣戰の

富川勇

新根文之助朗詩  
安部正義編曲

せん - セン の - みこ - とか

じゅし り ま - は ま - い の - ちまみ

け - き こ る - へ まつ - り -

たまきはる みことかしこし

こたへまつらむ  
生命ささげて

たまきはる

みことかしこし

宣戰の

三五

## 擊ちてし止まむ

宮川勇

奏唱(ゆるやかに・詠誦風に)

木岡英三郎

しのあたるさりてしやせび  
みなみわんらもゆるうとつ  
たまとなつ

三六

魂の仇

擊ちてし止まむ

皇民われら

燃ゆるひとつの

弾丸となりつつ

昭和十八年五月廿九日初版印刷  
昭和十八年六月一日初版發行  
昭和十九年二月二十五日二版發行  
（五千部）  
定價金八拾錢也  
合計金八拾七錢也  
特別行為稅相當額金七錢也

# 歌美讚亞興

日本出版會承認

v410074



編輯者 日本基督教讀美歌委員會  
發行者 宇田勗  
東京市神田區司町二丁目八番地  
印刷所 富岡印刷三郎  
東京市神田區司町二丁目八番地  
印 刷 所  
發行所 株式會社 菩醒社  
東京市大森區上池上町一一〇四  
營業所 東京市京橋區銀座四丁目四番地  
振替口座東京五五三

配給元 日本出版配給株式會社  
東京市神田區後落町二丁目九番地

出版會員番號一〇九五〇四  
東東四一三三